

JADM NEWS LETTER

Japanese Association for Disaster Medicine

一般社団法人 日本災害医学会

CONTENTS

| | | | |
|----------------------------------|---|---------------------|----|
| 表紙：学術集会ポスター..... | 1 | 優秀論文賞・優秀査読者賞紹介..... | 10 |
| 第30回日本災害医学会総会・学術集会 記念大会に向けて..... | 2 | APCDM2024 報告..... | 11 |
| 会長講演・特別講演・特別企画..... | 3 | 会員通信募集のお知らせ..... | 12 |
| 日程表..... | 4 | 編集委員会関連：抄録など..... | 12 |
| 単位取得可能なセッション一覧..... | 7 | 関連学会便り..... | 15 |
| 参与・顧問・実行委員紹介..... | 9 | 事務局からのお知らせ..... | 15 |
| 第23回世界災害医学会（WADEM2025）最新情報..... | 9 | 編集後記..... | 16 |

第30回
**日本災害医学会総会・学術集会
記念大会** The 30th Anniversary Meeting of Japanese Association for Disaster Medicine

海とともに生きる!

伊勢湾台風復興の地で
災害のこれまでとこれからを考える

2025年
3/6(木)・8(土)
名古屋市国際展示場
(ポートメッセなごや)

会長 **北川 喜己** (名古屋掖済会病院 病院長)
副会長 **福和 伸夫** (名古屋大学名誉教授・特任教授、あいち・なごや強靱化共創センター長)

学術集会事務局
事務局長 **太田 雅博** (名古屋掖済会病院 救急救命センター)
高橋 礼子 (愛知医科大学 災害医療研究センター)
名古屋掖済会病院 救命救急センター管理課 〒454-8502 名古屋市中川区松年町4-66

運営事務局 **株式会社コングレ** 中部支社 〒461-0008 名古屋市東区武平町5-1 名古屋栄ビルディング7F
TEL:052-950-3430 FAX:052-950-3370 E-mail:30jadm@congre.co.jp

<https://www.congre.co.jp/30jadm/>

第30回日本災害医学会総会・学術集会記念大会に向けて



第30回日本災害医学会 総会・学術集会 記念大会 会長
名古屋掖済会病院 病院長
北川 喜己

第30回日本災害医学会総会・学術集会記念大会もいよいよ来月になりました。本学術集会のテーマは、「海とともに生きる！伊勢湾台風復興の地で災害のこれまでとこれからを考える」です。各機関・団体が伊勢湾台風復興の地に一堂に会し、災害医療の歴史を振り返りながら、災害医療体制のさらなる向上を目指したいと考えています。

今回の学術集会では、皆様からたいへん多くの演題の応募をいただき、講演13のほか、能登半島地震を包括的に振り返る特別企画、DMAT20周年シンポなど80あまりのシンポジウムやパネルディスカッションを組むことができました。さらにプロジェクトマップを用いた南海トラフ大地震のワークショップに加え、一般演題は口演・ポスター合わせて760題を超えるなど全体として充実した盛りだくさんのプログラムとなりました。これらは医療のみならず保健・福祉分野、さらには防災・減災・災害復興に至るまでの幅広い分野における災害対応、また国際支援やテロ・事態対処医療など様々な健康危機管理事案に関する内容となっております。是非海の見える当学会場で、活発な議論を尽くしていただければ幸いです。

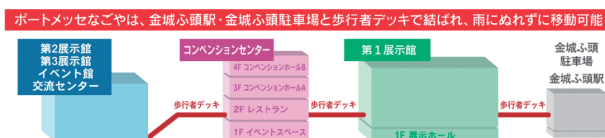
また、第29回大会では、能登半島地震の災害支援活動のため急遽会員懇親会が中止となりました。会長を務められた高階先生をはじめスタッフからは、くれぐれも名古屋で開催をと熱いバトンを受け取りました。これに応えるべく、第1日目には学会場の名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）第1展示館で全員懇親会、第2日目には名古屋クラウンホテルでDMAT20周年記念懇親会を開催予定です。手羽先、味噌カツ、ひつまぶし、どて煮、きしめん、台湾ラーメン、味噌煮込みうどん、あんかけスパなど名古屋めしのおすすめグルメを多彩なラインナップで毎日楽しんでいただけます。

是非一人でも多くの会員の皆様に会場までお越しいただき、お互い研鑽し、楽しく交流を深め、全国の絆を繋いで実り多い学術集会となるように引き続き鋭意準備を進めてまいります。皆様、名古屋でお会いしましょう！

学術集会概要

- 会 期 2025年3月6日(木)～8日(土)
- 会 場 名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）
- テ ー マ 海とともに生きる！伊勢湾台風復興の地で災害のこれまでとこれからを考える
- 会 長 北川 喜己（名古屋掖済会病院病院長）
- 副 会 長 福和 伸夫（名古屋大学名誉教授・特任教授、あいち・なごや強靱化共創センター長）
- 事務局長 企画担当：高橋 礼子（愛知医科大学 災害医療研究センター）
事務担当：太田 雅博（名古屋掖済会病院 救命救急センター）

H P <https://www.congre.co.jp/30jadm/index.html>



■会長講演・基調講演・特別講演・特別企画・ワークショップ

*2025年2月中旬時点の情報です。最新情報は学術集会HPをご確認ください。

第1日目 3月6日 木曜日

第1会場 (コンベンションセンター 3F コンベンションホールA)

14:20～16:20 **特別企画 能登半島地震を振り返る1**

輪島市における対応

16:30～18:00 **特別企画 能登半島地震を振り返る2**

関係団体の活動

第2会場 (コンベンションセンター 4F コンベンションホールB)

9:50～10:50 **基調講演1**

愛・地球博からのメッセージ～愛知万博20周年～

野口 宏 (愛知医科大学 救命救急科)

11:00～12:30 **特別企画1**

2025大阪・関西万博に向けて

第3会場 (交流センター 3F 会議ホール)

11:00～12:30 **特別企画 能登半島地震を振り返る3**

スペシャルレクチャー

第4会場 (交流センター 3F 第3会議室)

17:00～18:00 **特別講演1**

災害時等における船舶を活用した医療提供について—今後の展望—

田中 桜 (内閣官房 船舶活用医療推進室)

第10会場 (第1展示館 1F ホールB)

9:10～10:10 **特別企画2**

WADEM2025

特別企画会場 (第1展示館 1F ホールC)

11:20～12:20 **特別講演2**

リベリアから南スーダンまで「国境なき医師団、私の歩んできた道」

久留宮 隆 (国境なき医師団日本 監事、済生会松阪総合病院 救急科長)

13:40～14:10 **会長講演**

海とともに生きる！

北川 喜己 (名古屋掖済会病院 病院長)

14:20～14:50 **基調講演2**

南海トラフ地震を俯瞰する～

福和 伸夫 (名古屋大学名誉教授・特任教授、あいち・なごや強靱化共創センター長)

15:00～16:30 **ワークショップ1**

南海トラフ地震を俯瞰する～その時、医療機関、医療機関を取り巻く環境はどうか～

※福和先生によるプロジェクションマッピングを実施します。

第2日目 3月7日 金曜日

第1会場 (コンベンションセンター 3F コンベンションホールA)

9:10～10:10 **特別講演3**

災害から生まれ、災害に生きる海猿

稲葉 健人 (第三管区海上保安本部交通部)

岡 大一郎 (第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地)

10:30～12:00 **特別講演4**

救急災害医療の源点 - 辺見先生を偲ぶ -

加地 正人 (埼玉医科大学国際医療センター 救命救急センター)

14:20～15:50 **特別企画 能登半島地震を振り返る4**

緊急対応

16:30～18:30 **特別企画 能登半島地震を振り返る5**

病院・施設の評価と最低限の環境整備、避難搬送

第2会場 (コンベンションセンター 4F コンベンションホールB)

9:10～10:10 **基調講演3**

ハンセン病から考える人権の歴史

喜多 悦子 (公益財団法人笹川保健財団)

10:30～12:00 **特別企画3**

災害・疾患と人権～フクシマ・コロナを振り返る～

第4会場 (交流センター 3F 第3会議室)

8:50～10:20 **特別企画4**

健康危機管理対応人材の育成

第9会場 (イベント館 2F イベントホール2)

9:00～10:30 **特別企画5**

MCLS コースの研修体系について

特別企画会場 (第1展示館 1F ホールC)

8:30～10:00 **ワークショップ2**

南海トラフ地震を俯瞰する～その時、医療機関は～

※福和先生によるプロジェクションマッピングを実施します。

第3日目 3月8日 土曜日

第1会場 (コンベンションセンター 3F コンベンションホールA)

15:10～16:20 **特別企画6**

「VS 南海トラフ地震」～つなぐ議論のバトン～3rdメッセージ

南海トラフ地震における被災地での活動について

第2会場 (コンベンションセンター 4F コンベンションホールB)

8:30～9:00 **基調講演4**

伊勢湾台風復興の地から～今につながる

「海からの被災地支援」、そして未来へ

澤井 幸保 (第四管区海上保安本部長)

9:10～10:50 **特別企画7**

愛知のイベント・事件現場での医療を振り返る

13:10～14:10 **特別企画8**

子育て世代も災害対応！～ゼロ？から始める男女共同参画～

第3会場 (交流センター 3F 会議ホール)

13:10～14:40 **特別企画 能登半島地震を振り返る6**

持続可能な保健医療福祉体制と復興

14:50～16:20 **特別企画 能登半島地震を振り返る7**

総括：災害の本質は何だったのか

第10会場 (第1展示館 1F ホールB)

8:30～9:30 **ワークショップ3**

病院災害対策 正直なにしたらいいの？

1日目:2025年3月6日(木)

| 施設名 | コンベンションセンター | | | | 交流センター | | | イベント館 | | 第1展示館 | | | 施設名 |
|-------------|--|--|---|---|---|---|---|--|--|---|--|--|---------------------------------|
| 会場名 | 第1会場 | 第2会場 | 第3会場 | 第4会場 | 第5会場 | 第6会場 | 第7会場 | 第8会場 | 第9会場 | 第10会場 | 特別企画会場 | ポスター会場 | 会場名 |
| 部屋名 | 3F コンベンションホールA | 4F コンベンションホールB | 3F 会議ホール | 3F 第3会議室 | 3F 第4会議室 | 4F 第6会議室 | 4F 第7会議室 | 2F イベントホール1 | 2F イベントホール2 | 1F 展示ホールB | 1F 展示ホールC | 1F 展示ホールB | 部屋名 |
| 7:00 | <p>社会医学系分野に関連する講習について 指:指導医講習会 感:共通講習(感染症) 倫:共通講習(医療倫理) 安:共通講習(医療安全) 救:救急科領域講習会 医:日本医師会生涯教育制度単位 選:選択受講項目(K単位講習)</p> | | | | | | | | | | | | 7:00 |
| 8:00 | | | | | | | | | | | | | 8:00 |
| 9:00 | <p>9:00-9:10 期会の開</p> | | | | | | | | | | | | 9:00 |
| 9:10-10:40 | <p>DMAT20周年 シンポジウム1 DMAT活動の変遷 ～本部活動～</p> <p>座長:近藤 久雄 島田 二郎</p> | <p>9:50-10:50 基調講演1 愛・地球博からの メッセージ ～愛知万博20周年～ 座長:井上 保介</p> | <p>9:10-10:10 シンポジウム1 世界のDMAT</p> <p>座長:大場 次樹 豊園 義樹</p> | <p>9:10-10:40 シンポジウム2 災害医療における 鉄道利用の可能性</p> <p>座長:小早川義貴 島津 和久</p> | <p>9:10-10:50 パネルディスカッション4 地域の要配慮者が 災害時に必要とする 支援と「食」の 災害時「食」連携 委員会</p> <p>座長:中久木康一 奥田 博子</p> | <p>9:10-9:55 口演1 情報・通信・セキュリティ1 座長:岩瀬 史明 末永利一郎</p> | <p>9:10-9:45 口演9 保健医療福祉調整本部 座長:小笠原賢、藤原弘之</p> | <p>選 9:10-10:40 パネルディスカッション8 南海トラフ地震等大規模 地震災害時のドクターヘ リ運用体制構築 ～4学会合同委員会 からの報告 (災害時航空機にかかわる 検討委員会)</p> <p>座長:森野 一真 花木 芳洋</p> | <p>選 9:10-10:40 パネルディスカッション9 災害のこれまでもと これからのを考える ～トリアージ～</p> | <p>選 9:10-10:10 特別企画2 WADEM2025 (WADEM2025組織委員会)</p> <p>座長:大友 康裕 小井土雄一</p> | | | |
| 10:00 | <p>10:50-12:20 DMAT20周年 シンポジウム2 DMAT活動の変遷 ～通信確保と 情報伝達・共有～ (災害医療ロジスティクス 検討委員会)</p> <p>座長:大友 仁 鈴木 教久</p> | <p>11:00-12:30 特別企画1 2025大阪・関西万博 に向けて</p> <p>座長:若井 聡智 酒井 智彦</p> | <p>選 11:00-12:30 特別企画 能登半島地震を 振り返る3 スペシャルレクチャー</p> <p>座長:近藤 久雄 三村 誠二 小早川義貴</p> | <p>11:00-12:30 パネルディスカッション2 行政が振り返る 東日本大震災犠牲者・ 遺族対応 ～未来へ伝承すべき 医療との連携～</p> <p>座長:熊谷 章子</p> | <p>選 11:00-12:30 パネルディスカッション5 災害のこれまでもと これからのを考える ～小児用産科～ (小児用産科領域災害 対策検討委員会)</p> <p>座長:上杉 泰隆 高村 ゆ希</p> | <p>10:00-10:45 口演10 自然災害1 座長:上村 修二 百武 宏志</p> | <p>10:50-11:35 口演3 座長:井原 剛之 林 秀樹</p> | <p>10:45-11:30 口演11 指野:調整・連携1 座長:坂野 健太郎 千島 佳也子</p> | <p>10:50-12:20 シンポジウム3 災害支援ナースの これまでもとこれから</p> <p>座長:石井美恵子 川谷 陽子</p> | <p>選 10:50-12:20 シンポジウム5 富士山噴火対応</p> <p>座長:小井土雄一 井上 潤一</p> | <p>10:50-11:50 体験ワークショップ D24H</p> | <p>11:20-12:20 特別講演2 リベリアから 南スーダンまで 「国境なき医師団、 私の歩んできた道」 座長:中川 隆</p> | <p>8:00-16:30 ポスター貼付・閲覧</p> |
| 11:00 | | | | | | | | | | | | | 11:00 |
| 12:00 | | | | | | | | | | | | | 12:00 |
| 12:40-13:30 | <p>ランチンセミナー1 共催:KDDI まとめてオフィ ス中部株式会社</p> | <p>12:40-13:30 ランチンセミナー2 共催:ミヤリサン製薬 株式会社</p> | <p>12:40-13:30 ランチンセミナー3 共催:塩野義製薬 株式会社</p> | | | | | | | | | | 13:00 |
| 14:00 | | <p>座長:中山 伸一 小井土雄一</p> | | | | | | | | | | | 14:00 |
| 14:20-16:20 | <p>特別企画 能登半島地震を 振り返る1 輪島市における対応</p> <p>座長:島田 二郎 小塚 浩</p> | <p>14:20-16:20 WHO神戸センター合同 セッション WKCFオーラ ム2025: 災害医療における国際 協力の強化: WADEM 2025東京会議 からの国際的発信・寄与 の道を探る (国際委員会)</p> | <p>選 14:20-15:50 DMAT20周年 シンポジウム3 DMAT活動の変遷 ～病院・施設の 機能評価～</p> <p>座長:阿南 英明 松田 宏樹</p> | <p>14:20-16:00 パネルディスカッション3 災害のこれまでもと これからのを考える ～NGO/NPO～</p> <p>座長:稲葉 基高 千島佳也子</p> | <p>選 14:20-15:50 パネルディスカッション6 災害のこれまでもと これからのを考える ～医師会・JMAT～</p> <p>座長:堀川 秀一 高階隆一郎</p> | <p>14:20-15:10 口演5 座長:井原 剛之 林 秀樹</p> | <p>14:20-15:10 口演13 精神・心のケア 座長:河島 謙 藤江 直輝</p> | <p>選 14:20-15:50 DMAT20周年 シンポジウム5 DMAT活動の変遷 ～搬送調整～</p> <p>座長:藤原 弘之 中村 光伸</p> | <p>選 14:20-15:50 シンポジウム6 高齢者施設と熱中症</p> <p>座長:近藤 久雄 村上 健一</p> | <p>選 14:20-15:50 シンポジウム7 徳島山噴火から10年</p> <p>座長:新井 克哉 高山 浩史 田中 啓司</p> | <p>14:20-14:50 基調講演2 南海トラフ地震を前触する 座長:北川 喜巳 福和 伸夫</p> | <p>15:00-16:30 ワークショップ1 南海トラフ地震を 俯瞰する ～その時、医療機関、 医療従事者を取り巻く 環境はどうなるか～ 座長:北川 喜巳 福和 伸夫</p> | |
| 15:00 | | | | | | | | | | | | | 15:00 |
| 16:00 | | | | | | | | | | | | | 16:00 |
| 16:30-18:00 | <p>特別企画 能登半島地震を 振り返る2 関係団体の活動</p> <p>座長:近藤 久雄 森川 精二</p> | <p>選 16:30-18:00 パネルディスカッション1 災害のこれまでもと これからのを考える ～多機関連携～</p> <p>座長:清住 哲郎 小谷 聡司</p> | <p>選 16:30-18:00 DMAT20周年 シンポジウム4 DMAT活動の変遷 ～保健医療福祉の 情報ツール～ (災害医療ロジスティクス 検討委員会)</p> <p>座長:中山 伸一 阿南 英明</p> | <p>17:00-18:00 特別講演1 災害時における 船舶を活用した 医療提供について ～今後の展望～ 座長:福和 伸夫</p> | <p>16:10-17:50 パネルディスカッション7 災害のこれまでもと これからのを考える ～災害業界～ (災害事業委員会)</p> <p>座長:渡邊 曉洋 山田 卓郎</p> | <p>16:15-17:05 口演7 搬送1 座長:高山 浩史 菊池 悠</p> | <p>16:20-17:05 口演15 能登半島地震 ～福祉対応～1 座長:花木 芳洋 立松 美穂</p> | <p>選 16:10-17:40 シンポジウム4 災害時における医療 コンテナの活用について ～能登半島地震における 教訓と今後について～</p> <p>座長:中田 敬司 山下 和範</p> | <p>選 16:00-18:00 パネルディスカッション10 災害トリアージの 実行者保護に向けた 倫理的・法的・ 社会的検討</p> <p>座長:富尾 淳</p> | <p>選 16:00-18:00 パネルディスカッション11 災害のこれまでもと これからのを考える ～DPAT～</p> <p>座長:太刀川弘和 福生 泰久</p> | <p>16:30-17:30 ポスター発表</p> | <p>17:30-18:00 ポスター撤去</p> | |
| 17:00 | | | | | | | | | | | | | 17:00 |
| 18:00 | | | | | | | | | | | | | 18:00 |
| 18:15-20:15 | <p>18:15-20:15 全員懇親会 会場:ポートメッセなごや 第1展示館 1F 展示ホールC</p> | | | | | | | | | | | | 19:00 |
| 19:00 | | | | | | | | | | | | | 19:00 |
| 20:00 | | | | | | | | | | | | | 20:00 |
| 21:00 | | | | | | | | | | | | | 21:00 |

2日目:2025年3月7日(金)

| 施設名 | コンベンションセンター | | | | 交流センター | | | イベント館 | | 第1展示館 | | | 施設名 | |
|-------|---|---|--|--|--|--|--|--|---|---|--|--------------|-------------------------|-------|
| 会場名 | 第1会場 | 第2会場 | 第3会場 | 第4会場 | 第5会場 | 第6会場 | 第7会場 | 第8会場 | 第9会場 | 第10会場 | 特別企画会場 | ポスター会場 | 会場名 | |
| 部屋名 | 3F コンベンションホールA | 4F コンベンションホールB | 3F 会議ホール | 3F 第3会議室 | 3F 第4会議室 | 4F 第6会議室 | 4F 第7会議室 | 2F イベントホール1 | 2F イベントホール2 | 1F 展示ホールB | 1F 展示ホールC | 1F 展示ホールB | 部屋名 | |
| 7:00 | 社会医学系分野に関連する講習について 指:指導医講習会 感:共通講習(感染症) 倫:共通講習(医療倫理) 安:共通講習(医療安全) 救:救急科領域講習会 医:日本医師会生涯教育制度単位 選:選択受講項目(K単位講習) | | | | | | | | | | | | 7:00 | |
| 8:00 | | | | | | | | 指 | | | | | 8:00 | |
| 9:00 | 9:10-10:10 特別講演3 災害から生まれ、 災害に生きる海嶽 座長:北川 善己 | 9:10-10:10 基調講演3 ハンセン病から考える 人権の歴史 座長:三村 誠二 | 選 8:30-10:00 DMAT20周年 シンポジウム6 DMAT活動の発達 ~病院・施設避難~ 座長:若井 聡智 伊藤 宏保 | 選 9:50-10:20 特別企画4 健康危機管理 対応人材の育成 (社会医学系専門医 検討委員会) 座長:磯 博康 近藤 久禎 | 8:30-10:00 パネルディスカッション14 災害のこれまでに これからを考える ~JRA~ 座長:落合 秀徳 富岡 正雄 | 9:10-9:55 DMAT:災害拠点病院1 座長:吉野 篤人 佐藤めぐみ | 9:10-9:55 医師会・JMAT 座長:岡本 博之 久保 秀宏 | 指 8:00-9:05 社会医学系専門医 指導医講習会 | 選 9:00-10:30 特別企画5 MCLSコースの 研修体系について (MCLS運営委員会) 座長:大友 康裕 阿南 英明 | 選 9:00-10:40 シンポジウム13 クラッシュ症候群 (Crush Syndrome: CS) に多職種で立ち向かう (クラッシュ症候群 特別委員会) 座長:井上 潤一 中山 伸一 | 8:30-10:00 ワークショップ2 南海トラフ地震を 俯瞰する ~その時、 医療機関は~ 座長:福和 伸夫 福田 真治 | | 9:00 | |
| 10:00 | 選 救 10:30-12:00 特別講演4 救急災害医療の原点 ~辺見先生を偲ぶ~ 座長:本間 正人 | 選 10:30-12:00 特別企画3 災害・疾患と人権 ~フクシマ・コナを 振り返る~ 座長:島田 二郎 三村 誠二 | 選 10:30-12:00 DMAT20周年 シンポジウム7 DMAT活動の発達 病院・施設機能維持 (災害医療ロジスティクス 検討委員会) 座長:高桑 大介 中田 正明 | 選 10:30-12:00 パネルディスカッション13 災害のこれまでに これからを考える ~選抜対応・DMORT~ 座長:吉永 和正 | 選 10:10-12:10 シンポジウム9 災害時・災害後の 支援者支援 (災害時の精神心理的 対応に関する委員会) 座長:小井土雄一 高橋 晶 | 10:05-10:50 口演18 地域:他組織連携1 座長:高山 浩史 石井 実子 | 10:05-10:55 口演25 口赤 座長:高階謙一郎 白子 隆志 | 選 9:10-11:10 シンポジウム12 医療現場と行政をつなぐ ~話し合いの 進め方のコツ~ 座長:伊藤 友弥 寺澤 大祐 | | | | | | 10:00 |
| 11:00 | | | | | | | | | | 選 11:10-12:10 教育講演2 リスクコミュニケーションに ついて 座長:阿南 英明 | 倫 11:00-12:00 教育講演3 社会医学系専門医 共通講習 医療倫理講習会 (倫理委員会) 座長:高橋 昌 | | | 11:00 |
| 12:00 | 12:20-13:10 ランチセミナー4 共催:エアウォーター防 災株式会社 | 12:20-13:10 ランチセミナー5 共催:日本ストライカー 株式会社 | | | | | | | | | | | 8:00-17:20 ポスター貼付・閲覧 | 12:00 |
| 13:00 | | | | | | | | | | | | | | 13:00 |
| 14:00 | | | | | | | | | | | | | | 14:00 |
| 15:00 | 選 14:20-15:50 特別企画 能登半島地震を 振り返る4 緊急対応 座長:明星 康裕 萩原 康友 | 選 14:20-16:20 パネルディスカッション12 災害医療と産学連携 (産学連携新技術 検討委員会) 座長:中田 敬司 島田 二郎 | 選 14:20-15:20 国際委員会企画 WHO WPRO 座長:久保 達彦 福野由樹子 | 選 14:20-17:20 パネルディスカッション15 災害時の日本の伝統医 療(鍼灸・漢方薬等)の 利活用 座長:阿南 英明 朝日山一男 | 14:20-15:10 口演20 福祉行政・社会福祉施設 での活動・支援 座長:小倉 素一 原田奈穂子 | 14:20-15:10 口演27 新しい取り組み 座長:奥山 学 鈴木 健介 | 14:20-15:10 口演28 BCP:マニュアル全般1 座長:堀内 龍仁 満嶋伴之助 | 選 14:20-15:50 パネルディスカッション16 災害のこれまでに これからを考える ~アクセス対策~ 座長:近藤 久禎 鈴木 教久 | 選 14:20-16:00 パネルディスカッション17 災害のこれまでに これからを考える ~保健分野・DEAT~ 座長:人見 嘉哲 三村 誠二 | 14:20-15:20 シンポジウム14 SIP防災セミナー/最新 のSIP研究開発の動向 司会:市川 学 | 13:30-15:05 特別上映(1回目) 「その鼓動に耳をあてて」 (95分) | | 15:00 | |
| 16:00 | | | | | | | | | | | | | | 16:00 |
| 17:00 | 選 16:30-18:30 特別企画 能登半島地震を 振り返る5 病院・施設の評価と 最低限の環境整備・ 避難輸送 座長:阿南 英明 若井 聡智 | 選 16:30-18:30 シンポジウム8 災害対応における 大学の役割 ~臨床・教育・研究~ 座長:高橋 昌 岩田 充永 | 選 17:00-18:30 防災学術連携体・ 医学系連合会等 対応委員会企画 伊勢湾台風アゲイン ~名古屋は大丈夫か~ 座長:米田 理子 大友 康裕 | 選 16:10-17:10 シンポジウム10 国際緊急援助隊 2024 グローバル・チャレンジ レポート 座長:井上 潤一 中森 知聡 | 選 16:20-17:05 口演22 慢性疾患・在宅医療 座長:稲村 広敏 名知 祥 | 16:20-17:10 口演29 BCP:マニュアル全般2 座長:花木 芳洋 増田由美子 | 選 16:00-17:30 DMAT20周年 シンポジウム8 DMAT活動の発達 ~重急性期の 体制確立~ 座長:小早川義貴 家水慎一郎 | 選 16:50-18:20 パネルディスカッション18 災害医療における ロボティクス活用 (ロボティクスと 合同セッション) (日本ロボティクス学会と 医工連携委員会) 座長:松野 文俊 長橋 和希 | | | 16:20-17:55 特別上映(2回目) 「その鼓動に耳をあてて」 (95分) | | 17:00 | |
| 18:00 | | | | | 選 17:20-18:20 シンポジウム11 ARCH Project Updates 座長:伊斐 達朗 夏川 知輝 小澤 真紀 | 17:20-18:10 口演23 実験機関 座長:徳野 慎一 久保 秀宏 | 17:20-18:10 口演30 BCP:マニュアル全般3 座長:中島 康 高桑 大介 | | | 17:30-18:30 全国災害拠点病院 連絡会議 | 17:20 18:20 ポスター発表 | | 18:00 | |
| 19:00 | | | | | | | | | | | | | | 19:00 |
| 20:00 | 19:30-21:30 DMAT20周年記念懇親会 会場:名古屋クラウンホテル | | | | | | | | | | | | 20:00 | |
| 21:00 | | | | | | | | | | | | | | 21:00 |

3日目:2025年3月8日(土)

| 施設名 | コンベンションセンター | | | | 交流センター | | | | イベント館 | | 第1展示館 | | | 施設名 | |
|-------|--|--|---|---|--|--|---|---|---|--|---|--|---|-------------------------|--|
| 会場名 | 第1会場 | 第2会場 | 第3会場 | 第4会場 | 第5会場 | 第6会場 | 第7会場 | 第8会場 | 第9会場 | 第10会場 | 特別企画会場 | ポスター会場 | 会場名 | | |
| 部屋名 | 3F コンベンションホールA | 4F コンベンションホールB | 3F 会議ホール | 3F 第3会議室 | 3F 第4会議室 | 4F 第6会議室 | 4F 第7会議室 | 2F イベントホール1 | 2F イベントホール2 | 1F 展示ホールB | 1F 展示ホールC | 1F 展示ホールB | 部屋名 | | |
| 7:00 | 社会医学系分野に関する講習について 指:指導医講習会 感:共通講習(感染症) 倫:共通講習(医療倫理) 安:共通講習(医療安全) 救:救急科領域講習会 医:日本医師会生涯教育制度単位 選:選択受講項目(K単位講習) | | | | | | | | | | | | 7:00 | | |
| 8:00 | | 産長:北川 善巳 8:30-9:00 基調講演4 伊勢湾台風復興の地から | 選 8:30-10:00 シンポジウム17 地下鉄サリン事件から 30年-医療のテロ- CBERN対策は どう変わったか- 産長:若井 聡智 | 8:30-10:00 学生セッション1 DMASセッション (学生部会支援委員会) 産長:佐々木 柚李 藤田 基生 | 8:30-9:15 口演31 小児風疹期 産長:伊藤 友弥 千島 佳也子 | 8:30-9:20 口演39 病院:施設内教育 産長:笠岡 俊志 渡邊 暁洋 | 選 8:30-10:30 シンポジウム20 能登半島地震 こんなものが欲しかった (産学連携新技術 検討委員会) 産長:中田 敬司 島田 二郎 | 選 8:30-10:00 パネルディスカッション21 災害産業保険 産長:佐々木孝治 立石清一郎 | 選 8:30-10:00 パネルディスカッション23 避難者を幸せにする 避難所 (BHEP運営委員会) 産長:恩部 陽弥 細川 浩 | 8:30-9:30 ワークショップ3 病院災害対策 正直にならないうの? (多職種連携推進委員会) 産長:山下 和範 鈴木 健介 | 救 8:30-9:30 教育講演4 災害時診療のための 内科診断リフレッシュ 産長:後藤 緑 | | | | |
| 9:00 | 選 8:30-10:00 DMAT20周年 シンポジウム9 DMAT活動の変遷 ~病院:施設:避難所の 環境整備~ (災害医療コンステラス 検討委員会) 産長:小早川義貴 中田 正明 | 選 9:10-10:50 特別企画7 愛知のイベント ~事件現場での 医療を振り返る 産長:加納 秀記 (調整中) | | | 9:25-10:15 口演40 避難所1 産長:金澤 豊 野中 良哉 | | | | | | | | | | |
| 10:00 | 選 10:20-11:50 DMAT20周年 シンポジウム10 DMAT活動の変遷 ~地域の復興:復興~ 産長:小早川義貴 中山 伸一 | | 選 10:20-11:50 シンポジウム18 災害医療から見た 紛争地域支援 産長:若井 聡智 矢崎 祐一 | 10:20-11:50 シンポジウム19 令和6年8月震都市土砂 災害救助に伴う対応 ~他機関との 連携活動~ 産長:宍 界生 アライバザー 山内 崇裕 恩部 友紀 | 10:20-11:05 口演39 学生教育 産長:生越 智文 大山 太 | 10:25-11:00 口演41 避難所2 産長:神原淳一 高永縁 | | 選 10:05-11:20 シンポジウム21 健康危機管理の 最新動向 産長:久保 達彦 和田 耕治 | | 選 10:20-11:50 シンポジウム23 日本の避難所環境 改善へのシナリオ 産長:植田 信策 石井美恵子 | | 感 10:50-11:50 教育講演5 わが国の新興再興感染 症対応において国立健 康危機管理推進機構に 期待される役割 産長:河南 英明 | 10:50-11:50 シンポジウム24 D24Hシンポジウム 産長:調整中 | 8:00-15:00 ポスター貼付・閲覧 | |
| 11:00 | | 選 11:00-12:00 シンポジウム16 災害時のカタラーベリ の運用について 産長:久保 正紀 藤家 健次 | | 11:10-12:00 口演34 薄地対策 産長:寺澤ゆかり 三浦 邦久 | 11:10-11:45 口演42 病院船:医療コンテナ 産長:吉野篤人 渡邊三三 | 11:10-11:55 口演46 能登半島地震~保健 医療福祉調整本部~ 産長:島津和久 吉田修 | | 選 10:05-11:20 シンポジウム22 国立健康危機管理研究機構の 設立と厚生労働省DMATの今後 に向けて 産長:小井土雄一 長井真治 | | | | | | | |
| 12:00 | | 12:10 13:00 ランチセミナー-8 共催:アストラゼネカ 株式会社 | | 12:10-13:00 ランチセミナー-9 共催:キヤノンメディカル システムズ株式会社 | | | | | | | | | | | |
| 13:00 | 選 13:10-14:50 シンポジウム15 阪神淡路大震災 から30年 ~首都直下型地震 に向けて~ 産長:小井土雄一 中山 伸一 | 13:10-14:10 特別企画8 子育て世代も災害対 応1~世?から始める 男女共同参画~ (DM推進委員会) 産長:若井 聡智 石井美恵子 | 選 13:10-14:40 特別企画 能登半島地震を 振り返る6 持続可能な保健医療 福祉体制と復興 産長:小早川義貴 上杉 知子 | 選 13:10-14:25 ELSI検討委員会企画 災害時のELSI: 倫理的・法的・社会的 課題と向き合う 産長:石川 秀樹 | 13:10-13:55 口演35 DMAT:災害拠点病院2 産長:水野 浩利 恩部 陽弥 | 13:10-14:00 口演43 成人教育 産長:山崎 佳寛 酒井 明子 | 13:10-13:55 口演47 能登半島地震 ~避難所~ 産長:吉田隆浩 向井慎治 | 選 13:10-15:10 パネルディスカッション22 災害のこれから どのように考える ~BOP研修は どこへ行く? (BOP研修検討委員会) | 13:10-14:40 パネルディスカッション24 災害のこれから どのように考える ~災害看護~ (災害看護委員会) 産長:高村 玲希 小林 賢吾 | | | | | | |
| 14:00 | | 選 14:50-16:20 パネルディスカッション19 災害のこれからと これからを考える ~選別:在宅医療~ 産長:津田 雅康 是枝 大輔 | 選 14:50-16:20 特別企画 能登半島地震を 振り返る7 総括:災害の本質は 何だったのか 産長:菊地 修一 近藤 久根 森川 穠二 | 選 14:50-16:20 パネルディスカッション20 災害のこれからと これからを考える ~災害時の外国人対応 ~ 産長:尾北 賢治 田治 明宏 | 14:05-14:50 口演36 国際支援1 産長:中森 知毅 甲斐聡一朗 | 14:10-14:55 口演44 自然災害2 産長:川瀬 映典 山崎 達枝 | 14:05-14:50 口演48 地域:他組織連携3 産長:松岡 良太 安部 史生 | 選 14:50-16:20 パネルディスカッション25 災害のこれからと これからを考える ~福祉分野~ 産長:石川 敏仁 中野めぐみ | 14:20-16:20 シンポジウム25 学会主導研究 中間報告会 (学会主導研究委員会) 産長:越智 小枝 大友 康裕 | 15:00-16:00 ポスター発表 | | | | | |
| 15:00 | 選 15:10-16:20 特別企画6 「VS前部?ラフ地震」 ~つなぐ議論の先~ 3rdメッセージ 南海トラフ地震における被災 地での活動について 産長:高橋 昌 | | | | 15:45-16:20 口演38 国際支援3 産長:石原誠 中田正明 | 15:05-15:50 口演45 自然災害3 産長:林 晴之 山内 延貴 | 15:45-16:20 口演50 能登半島地震~看護~ 産長:京都孝志 黒住健人 | | | | | | | | |
| 16:00 | 16:20-16:30 閉会の辞 | | | 16:30-17:30 学生セッション2 DMAS企画 第12回学生フォーラム 座談会 災害医療と多機関連携 産長:久野 裕宗 松村 達利 | | | | | | | | | 16:00-16:30 ポスター撤去 | | |
| 17:00 | | | | | | | | | | | | | 17:00 | | |
| 18:00 | | | | | | | | | | | | | 18:00 | | |
| 19:00 | | | | | | | | | | | | | 19:00 | | |
| 20:00 | | | | | | | | | | | | | 20:00 | | |
| 21:00 | | | | | | | | | | | | | 21:00 | | |

■第30回日本災害医学会総会・学術集会記念大会における 『社会医学系分野に関連する講習』について

社会医学系専門医・指導医の更新に必要な要件のうち、『社会医学系分野に関する講習』につきましては、本学術集会の以下のセッションが認定されております。奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

【社会医学系専門医（指導医）講習会】

日時：3月7日（金）8:00～9:05

会場：第8会場（ポートメッセなごや イベント館2F イベントホール1）

【共通講習（感染症）】

教育講演5「わが国の新興再興感染症対応において国立健康危機管理研究機構に期待される役割」

日時：3月8日（土）10:50～11:50

会場：特別企画会場（ポートメッセなごや 第1展示館1F ホールC）

【共通講習（医療倫理）】

教育講演3「医療をめぐる生命倫理と法——臓器移植、インフォームド・コンセント、ACP」

日時：3月7日（金）11:00～12:00

会場：第10会場（ポートメッセなごや 第1展示館1F ホールB）

【共通講習（医療安全）】

・教育講演1「災害医療における医療安全：人間性と複雑性を考慮した新たな視点」

日時：3月7日（金）15:30～16:30

会場：第3会場（ポートメッセなごや 交流センター 3F 会議ホール）

【選択受講項目（K単位講習）】

対象プログラムにつきましては、P.4～6日程表をご参照ください。

【注意事項】

- ・学術集会時に開催されるK単位認定講習については、**指導医講習会は上限1単位まで、必須受講項目（共通講習）は上限3単位まで、選択受講項目（K単位講習）は上限3単位まで**、となっております。
- 各セッションの聴講自体に制限はございませんが、**単位取得は最大7単位まで**、となっております。
- ・セッション中にQRコードを投影いたしますので、お手元のスマートフォン、タブレットで読み込んでいただき、Webフォームのご回答をお願いいたします。
- ・Webフォームの入力項目は氏名・所属、社会医学系専門医協会登録番号（日本災害医学会の会員番号ではございません）です。
- ・ご回答内容を確認後、3月中に受講証を配布いたします。
- ・各セッションの回答が必要です。
- ・スマートフォン、タブレットのご用意が出来ない方は会場スタッフへお申し付けください。
- ・専門医・指導医更新の詳細につきましては、一般社団法人社会医学系専門医協会ホームページをご確認下さい。

専門医更新：<http://shakai-senmon-i.umin.jp/specialist/specialist02/>

指導医更新：<http://shakai-senmon-i.umin.jp/specialist/specialist03/>

※現在、社会医学系専門医協会認定の必須受講項目（共通講習）を日本専門医機構での共通講習単位としては利用することが出来ませんので、ご注意下さい。

■第30回日本災害医学会総会・学術集会記念大会における『救急科領域講習』について

日本専門医機構救急科専門医更新基準のうちの「救急科領域講習」の冒頭に「学会が主催する救急医学に関する講習会など」が挙げられており、本学会も主催学会として明記されております。そこで、本学術集会の下記講演につきまして、日本救急医学会教育・研修統括委員会による審査の結果、「救急科領域講習」として認定を受けましたので、奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。下記の講演につきまして、講演会場の受付にて、「e医学会カード」による受講確認を行います。

【救急科領域講習会】

日時：2025年3月7日(金)10:30～12:00

会場：第1会場（ポートメッセなごや コンベンションセンター 3F コンベンションホールA）

演者：加地 正人先生（埼玉医科大学国際医療センター救命救急センター）

『救急災害医療の源点-辺見先生を偲ぶ-』

日時：2025年3月8日(土)8:30～9:30

会場：特別企画会場（ポートメッセなごや 第1展示館1F 第1展示館ホールC）

演者：上田 剛士先生（洛和会丸太町病院 救急総合診療科）

『災害時診療のための内科診断リファレンス』

●講演会場における「e医学会カード（UMINカード）」ご提示のお願い

上記の講演会場におきまして、「e医学会カード」の読み取りによる受講確認を行います。受講を予定されている救急科専門医及び今年度受験中の先生方は講習の際に「e医学会カード」をご持参ください。（「e医学会カード」を忘れた場合も参加・参加登録は可能ですが、できるだけ「e医学会カード」のご提示にご協力いただけますようお願い申し上げます。）



■日本医師会生涯教育制度単位

本学術集会は日本医師会より「生涯教育単位」の対象学会に認定されております。

単位の申請は自己申告となり、本学術集会で取得できる単位数は1.5単位です。

【対象セッションと単位】

パネルディスカッション6：災害のこれまでとこれからを考える～医師会・JMAT～

日時：3月6日(木)14:20～15:50

会場：第5会場（ポートメッセなごや 交流センター 3F 第4会議室）

カリキュラムコード：14（災害医療）1.5単位

【申告方法】

日医生涯教育の単位をご希望の方は当日会場入り口に掲示するQRコードを読み込み、フォームにご入力ください。後日、愛知県医師会にてシステムに登録いたします。日医生涯教育講座の受講証は原則発行していません。

※事前登録は不要です。

■第30回日本災害医学会総会・学術集会記念大会 参与・顧問・実行委員紹介

参与・顧問・実行委員として、下記の皆様にご尽力いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

なお、査読委員のご紹介は抄録集に記載させていただいております。ご協力に感謝申し上げます。

第30回日本災害医学会総会・学術集会記念大会 会長

北川 喜己

参与 (五十音順・敬称略)

中川 隆 (常滑市民病院)

野口 宏 (愛知県救急医療情報センター)

顧問 (五十音順・敬称略)

浅井 清文 (名古屋市立大学)

小寺 泰弘 (国立病院機構名古屋医療センター)

祖父江 元 (愛知医科大学)

丸山 彰一 (名古屋大学大学院医学系研究科 病態内科学講座)

湯澤 由紀夫 (藤田医科大学)

実行委員 (五十音順・敬称略)

和泉 邦彦 (藤田医科大学)

伊藤 宏保 (新潟大学)

稲田 眞治 (日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院)

今井 一徳 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)

岩田 充永 (藤田医科大学)

小澤 和弘 (愛知医科大学)

加納 秀記 (愛知医科大学病院)

河嶌 讓 (DPAT事務局)

川谷 陽子 (愛知医科大学病院)

神原 淳一 (日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院)

清住 哲郎 (防衛医科大学校病院)

久保 達彦 (広島大学大学院医学研究科)

小井土 雄一 (国立病院機構本部DMAT事務局)

小谷 聡司 (国立病院機構本部DMAT事務局)

小塚 浩 (国立病院機構本部DMAT事務局)

小早川 義貴 (国立病院機構本部DMAT事務局)

是枝 大輔 (国立病院機構本部DMAT事務局)

近藤 久禎 (国立病院機構本部DMAT事務局)

佐々木 佳恵 (国立病院機構本部DMAT事務局)

柴田 隼人 (愛知医科大学)

高木 省治 (愛知淑徳大学)

高橋 昌 (新潟大学大学院医歯学総合研究科)

高橋 善明 (浜松医科大学医学部附属病院)

田坂 勇太 (国立病院機構本部DMAT事務局)

立松 美穂 (国立病院機構名古屋医療センター)

谷口 健太郎 (松阪中央総合病院)

千島 佳也子 (国立病院機構本部DMAT事務局)

津田 雅庸 (愛知医科大学)

豊國 義樹 (国立病院機構本部DMAT事務局)

中田 正明 (兵庫県災害医療センター)

中村 光伸 (前橋赤十字病院 高度救命救急センター)

丹羽 一晃 (愛知淑徳大学)

畑田 剛 (桑名市総合医療センター)

花木 芳洋 (日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院)

船曳 知弘 (藤田医科大学病院)

本間 正人 (鳥取大学)

松田 宏樹 (国立病院機構本部DMAT事務局)

三村 誠二 (国立病院機構本部DMAT事務局)

矢嶋 祐一 (国立病院機構本部DMAT事務局)

山岸 庸太 (名古屋市立大学病院)

山本 尚範 (名古屋大学医学部附属病院)

若井 聡智 (国立病院機構本部DMAT事務局)

■第23回世界災害医学会 (WADEM2025) 最新情報

WADEM2025 組織委員会

原田 奈穂子・赤星 昂己・浅倉 友理・八木 雅幸

WADEM東京大会のカウントダウンも本格化してきました。本大会は、1月末の時点で過去のどの大会よりも多くの参加者が見込まれるほど、既に多くの方々が参加登録されています。世界中の大使館関係者や軍関係者からも参加申し込みを受けております。今からでも参加登録は間に合います！また、3月の名古屋大会の参加者は、こちらはWADEM東京開催期間中に、受付にて名古屋大会参加証を提示するとキャッシュバックを受けることができるよう調整を進めておりますので、名古屋大会への参加と参加証の保管をお忘れなく！

学会のおおよそのスケジュールは以下の通りです。

- 5月2日(金) - プレコンgressワークショップ/会議 (調整中)、ネットワーキングレセプション (夕方)
- 5月3日(土) - 開会式、招待講演、並行セッション、ポスターセッション (終日)
- 5月4日(日) - 招待講演、並行セッション、ポスターセッション (終日)
- 5月5日(月) - 招待講演、並行セッション、ポスターセッション (終日)
- 5月6日(火) - 並行セッション、表彰式、閉会式 (半日)

招待講演のゲストスピーカーが確定しました (写真1)。








災害・救急分野の最前線で世界的に活躍されるご高名な先生方ばかりです。その先生方のプロフィールは (写真1) のリンクから演者の写真をクリックすると閲覧できます (写真2)。

また、プレコンgressワークショップは以下のテーマで鋭意調整中です。

- ・災害をテーマにした研究能力向上
- ・サイバーセキュリティ
- ・マスギャザリングにおけるプライマリ・ケア
- ・感染症
- ・小児医療

全て英語での実施ですが、JADMとして同時通訳アプリを導入し日本語でもリアルタイムで参加ができるよう手配をしています。

今大会では過去最高の900件以上の発表演題登録がありました。既に12月23日には一般演題の採択結果通知がされていますが、日本からの演題登録も非常に多かった印象です。JADM会員の皆様には本委員会と学会主導研究委員会のジョイント企画で英文抄録作成支援イベントを行いました。採択された方を対象に発表準備支援イベントも企画しますので、引き続き学会からのお知らせにご注目ください。

| | | | |
|--|--|--|---|
|  Osamu Kunii, MD, PhD, MPH CEO & Executive Director Global Health Innovative Technology Fund (GHIT) |  April Llaneta, MD, MOH Associate Professor Department of Emergency Medicine, University of the Philippines-Philippine General Hospital |  Masahiro Morikawa, MD, MPH Professor of Family Medicine University of Virginia |  Elizabeth Newnham, PhD Senior Lecturer School of Population Health, Curtin University |
|  Luca Pigozzi, MD, MPH EMT Coordinator - Gaza Emergency Medical Teams Initiative, World Health Organization |  Sang Do Shin, MD, MPH, PhD Associate Professor College of Medicine, Seoul National University Hospital |  Saini Yang, PhD Executive Director Integrated Research on Disaster Risk (IRDR) | |



MASAHIRO MORIKAWA, MD, MPH, FAAP, SFHM

森川雅浩教授は、臨床医、ベッドサイド教育者、そしてグローバルヘルスの実践家です。1980年代のタイ・カンボジア国境での難民危機と北エチオピアの飢饉危機での経験が、あらゆる年齢と状態の患者を頭から足先まで治療できる技術を持つグローバルヘルス実践家となる道筋を決定づけました。教授は1988年、ジャマイカでのハリケーン・キルバートに対する国際緊急援助隊 (JMTDR) の外傷外科医として活動しました。この経験が、災害疫学に焦点を当てた公衆衛生学位の取得につながりました。

それ以来、外科専門医と家庭医の資格を有し、公衆衛生学位を取得した森教授は、アフガニスタン、グアテマラ、コソボ、ラオス、ネパール、スーダンのコミュニティにおいて、救急医療支援、プライマリケア研修、そしてあらゆるレベルの最前線の医療従事者の能力開発に従事してきました。グローバルヘルスにおける彼の焦点は、紛争後のコミュニティでのプライマリケアの再構築です。

森教授は、日本医科大学付属病院で外傷外科の初期研修を、ケース・ウェスタン・リザーブ大学/ユニバーシティ病院クリアランドメディカルセンター (オハイオ州クリアランド) で家庭医の研修を修了しました。ジョンズ・ホプキンス大学ブルームバーグ公衆衛生大学院 (メリランド州ボルチモア) で公衆衛生修士号を、東京医科大学 (東京) で医学学位を取得しています。趣味は歴史書を読むことです。

写真1: ゲストスピーカー紹介 (詳細はURLから: <https://wadem.org/congress/tokyo-2025/program/>)

写真2: ゲストスピーカーの森川雅浩教授の紹介 (原文はURLから: <https://wadem.org/congress/tokyo-2025/program/masahiro-morikawa/>)

■日本災害医学会・優秀論文賞・優秀査読者賞紹介

昨年度、学会誌に掲載されました投稿から厳正な審査を行いました結果、下記の皆様に決定となりました。3月7日(金)の会員総会時に表彰式を行います。また、学会誌発展のため、査読に大変ご貢献いただきました方より1名を表彰させていただく運びとなりました。ここにご紹介申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。

日本災害医学会代表理事 本間正人
 編集委員会委員長 七戸康夫

〈優秀論文賞〉

- ・ 矢田 哲康 川崎市立多摩病院（指定管理者学校法人聖マリアンナ医科大学）臨床エンジニア部
29巻1号 pp.61-69 原著論文
「災害拠点病院での圧挫症候群患者受け入れと持続的腎代替療法実施の可能性に関する実態調査」
- ・ 布施 明 日本医科大学救急医学教室
29巻3号 pp.213-219 原著論文
「南海トラフ地震における急性期災害医療のシミュレーションを用いた“未治療死”の検討」
- ・ 伊藤 勝博 弘前大学災害・被ばく医療教育センター
29巻3号 pp.222-229 原著論文
「青森県における原子力災害を想定した医療ニーズの推計—DHCoSを用いた事前リストに基づく評価と対応のあり方—」

〈優秀査読者賞〉

- ・ 佐々木 宏之 東北大学災害科学国際研究所 災害医療国際協力学分野



■ APCDM2024 を振り返って

国際委員会
 担当理事 中山 伸一、小井土 雄一
 委員長 久保 達彦
 委員 豊國 義樹
 APCDM2024 連携 WG 梶野 健太郎

2024年11月25日～26日、韓国ソウルで「Collaboration, Cooperation, Coordination for Disaster Response」をメインテーマとして開催されたアジア太平洋災害医学会（The 15th Asian Pacific Conference on Disaster Medicine : APCDM2024）についてご報告いたします。

APCDMはわが国発祥の災害医療に関する国際学会（事務局は日本が担当）で、第1回は2008年に大阪（千里救命救急センター太田宗夫大会長）で、以後2年ごとに開催されてきました。前回の第14回大会は2018年に神戸（兵庫県災害医療センター中山伸一大会長）で開催されましたが、それ以降、COVID-19パンデミックの影響もあり2020年に予定されていた上海開催は中止、その後長らく開催が中断してAPCDM自体の存続すら危ぶまれていたのです。そんな折、やっと2023年になって韓国災害医学会（Korean Society of Disaster Medicine: KSDM）が韓国救急医学会（Korea Society of Emergency Medicine: KSEM）の全面的協力を得て次回開催地として立候補してくれ、韓国ソウルでのAPCDM2024の開催が決定したのです。

ご存じ韓国はK-POPを代表とするカルチャーが日本人にも愛され、日本から一番近く食文化も似ていることから、多くの方が旅行されたことがあるかと思います。一方、災害医療については地震等の自然災害が日本と比べ極端に少なく、梨泰院雑踏事故やビルや地下鉄の火災など主に人災に関連する局地災害が多いため、近年、韓国災害医学会が中心となり組織づくりが早急に進められているところです。2023年の11月のある日、APCDM2024事務局長のSan Do Shin教授（国立ソウル大学）から関西医大の梶野健太郎先生に突然連絡が入りました。

「ソウルで開催するから手伝ってほしい！」

旧知の仲で親しくしていたShin教授からの要請を梶野先生が断れるはずもありません。梶野先生から前回のAPCDM2018を主催した私にも相談があり、APCDMの歴史、組織体制やキーパンスンの説明、前回大会の規模感や内容等をまずお伝えしました。



写真1：閉会式後、日韓メンバーで記念写真



写真2：APCDM2024からJADM memberへの感謝

そして、久しぶりのAPCDM開催を成功に導けるよう、当学会の国際委員会が窓口になってJADMからKSDMに全面的に力添えできる体制として、国際委員会を中心に梶野先生をはじめ数多くの国際学会経験者も加えた「APCDM2024連携WG」を設立(2024/4/23の理事会で承認)したのでした。

2024年6月にはAPCDM事務局ボードメンバーかつ国際委員会の小井土雄一、中山伸一、豊国義樹、JADMからは国際委員会の久保達彦、APCDM2024連携WGから梶野健太郎の5名が実際にソウルを訪問し、学会場の視察を含めた現地事務局担当者との具体的な打ち合わせを実施しました。その席で現地事務局が最も危惧されていたのが、学会参加者の確保についてでした。というのも、JADMの会員数が約6000人に対してKSDMの会員はその約1割程度と、もともと災害に従事する医療従事者が少ないところに、2024年2月以来、韓国国内では医学部定員増加に反対する研修医・専攻医の臨床ボイコット(ストライキ)が今なお継続しており、本来学会に参加するはずの災害医療関係者がどれだけ参加できるのか全く予想できないという状況だったからです。

「最低でも日本から50名は参加します!」

と、声高らかに宣言してしまった訪問団。帰国後すぐ、日本からの参加促進への対策についてAPCDM連携ワーキングで検討し、JADM会員に対する参加費軽減、英語に不慣れた日本人参加者への言語サポート、JADM-APCDMジョイントセッションの開催など、現地事務局に提案したのでした。

その結果、極めて異例なJADMの非医師会員に対する参加費割引、メイン会場でのリアルタイム日本語翻訳などが実現、最終的には655名の大会参加者を得て、そのうち日本からの参加者はなんと105名と海外勢ではダントツのNo.1、現地事務局も大変喜ばれていたことをお伝えします。何より現地事務局担当者から、韓国でAPCDM2024を開催できたことはもちろん、日本から多くの災害医療関係者が参加したことで、日本における災害医療への関心の高さを韓国関係者が知ることとなり、韓国国内の行政機関に対してさらなる予算措置を得るためのきっかけになったこと、医療従事者に対して災害医療への関与を惹起することができたと、感謝の言葉を述べられたことが印象的で、日韓協力の成果を肌で感じました。大会期間中、発表内容について活発な議論が繰り広げられると共に、K-DMATによるフィールドホスピタルの展示や韓国原子力医科学院・国家放射線緊急医療センターの除染トレーニング等も見学することができ、開催決定から開催まで時間がない中での韓国関係者の企画力と情熱に感銘を受けて帰国した次第です。ちなみに、帰国の日はソウルは近年にはない大雪、そして翌週には大統領による非常戒厳が発令されるなどの大混乱。無事に大会が終了した後で、一同、胸を撫で下ろした次第です。

なお、閉会式では、WADEM2025 in Tokyo大会を成功裏に導くべく、この度APCDM事務局長に就任された豊國さんが大会案内と韓国勢の参加呼びかけをして、成功裏に幕を閉じました。ちなみにAPCDMは、次回は2026年に上海でされることが決定しました。ここに、APCDM2024 in Seoulに参加いただきましたJADM会員様には厚く御礼申し上げます。



■会員通信募集のお知らせ

「会員通信」として、会員からの投稿を募集いたします。

災害医学に関わるコラムや事例紹介、研修報告等の投稿をお待ちしております。

【応募方法】

①学会ホームページ>ニュースレターのページより、書式をダウンロードの上、**400~800**文字の内容にて原稿を作成してください。写真は1~2枚掲載可能です。メール添付にてお送りください。タイトル、キャプション、写真提供元の記載、転載禁止の表記の有無等の記載等が必要でしたら、記載内容をご指示ください。

○JADM NEWS LETTER

<https://jadm.or.jp/contents/bulletin/>

②「**JADM NEWS LETTER 会員通信への投稿**」の件名にて、原稿ファイルを添付の上、事務局(jadm-post@as.bunken.co.jp)へメールをお送りください。

※これ以外の件名でお送りいただいた場合には受け付けられない可能性があります。

③受付後、広報委員会にて審議を行い、審議結果をご連絡いたします。

日本災害医学会雑誌 29 巻 3 号

●原著論文

日本の原子力災害医療派遣チームと隊員に関する現状分析

越智 元郎¹⁾、長谷川 有史²⁾、廣橋 伸之³⁾、山本 尚幸⁴⁾、馬越 健介⁵⁾、佐藤 格夫⁶⁾、田中 景子⁷⁾

¹⁾ 市立八幡浜総合病院麻酔科/救急・災害対策室

²⁾ 福島県立医科大学医学部放射線災害医療学講座

³⁾ 広島大学原爆放射線医科学研究所放射線災害医療開発研究分野

⁴⁾ 原子力安全研究協会放射線災害医療研究所

⁵⁾ 愛媛県立中央病院救命救急センター

6) 愛媛大学大学院医学系研究科救急医学

7) 愛媛大学大学院医学系研究科疫学・公衆衛生学

【目的】原子力災害医療派遣チームの現状を分析すること。【方法】1) 原子力災害拠点病院等の担当事務職から電話等で、チーム保有の有無、立地道府県との協定の有無等について質問した。2) チーム構成員を対象に、活動可能な累積被ばく線量について、郵送によるアンケート調査を実施した。【結果】1) 55施設中50施設が回答。44施設が派遣チームを保有、ユニフォーム保有が20.5%、協定締結は4.5%であった。2) 回答した派遣チーム隊員の25.3%が1mSv以下の累積被ばく線量を容認しなかった。1mSv以下またはこれを超える累積被ばく線量を許容する派遣チーム隊員は74.7%および53.7%であった。隊員の被ばく許容に独立して影響する項目は年齢50歳台（オッズ比、以下OR 3.2）およびDMAT併任（OR 1.7）であった。【結論】派遣チーム未確保の原子力災害拠点病院が依然存在する。派遣チームを持つ施設においても、食料・水の準備、初動チーム決定、院内規定作成、行政との協定等の準備を図る必要がある。

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.29.3_191

● 原著論文

南海トラフ地震における急性期災害医療のシミュレーションを用いた“未治療死”の検討

布施 明¹⁾, 大西 光雄²⁾, 宮内 雅人³⁾, 落合 秀信⁴⁾, 布施 理美^{1,5)}, 小山 博史⁵⁾

¹⁾ 日本医科大学救急医学教室

²⁾ 国立病院機構大阪医療センター救命救急センター

³⁾ 高知大学医学部災害・救急医療学講座

⁴⁾ 宮崎大学医学部病態解析医学講座救急・災害医学分野

⁵⁾ 東京大学大学院医学系研究科臨床情報工学

【目的】南海トラフ地震に着目し、シミュレーションで未治療死数を改善する施策を検討すること。【方法】地震発災後の重症傷病者数を対象とし、その転帰を現状と防災・減災対策施行前後で試算した。【結果・考察】8府県における未治療死率（未治療死数/発生重症者数）（%）は、高知県（85.0%）、三重県（81.5%）、和歌山県（79.5%）、静岡県（78.7%）、徳島県（75.4%）、愛媛県（66.7%）、愛知県（64.1%）、大阪府（0.8%）であった。重症者ベッド占有率（重症者数/病床数）が0.5を超える地域では未治療死率が増加していた。防災・減災対策後、未治療死が対策前と比較して3割以下に減少した。【結語】未治療死率が5%を超えないためには二次医療圏での「重症者ベッド占有率<0.5」が重要である。防災・減災対策が施された場合には未治療死率が3割以下に減少すると試算され、対策の確実な実施が肝要である。

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.29.3_213

● 原著論文

青森県における原子力災害を想定した医療ニーズの推計—DHCoSを用いた事前リストに基づく評価と対応のあり方—

辻口 貴清¹⁾, 伊藤 勝博¹⁾, 奈良岡 征都^{1,2)}, 花田 裕之²⁾, 雪田 大樹³⁾, 小笠原 賢³⁾, 高橋 礼子⁴⁾

¹⁾ 弘前大学災害・被ばく医療教育センター

²⁾ 弘前大学大学院医学研究科救急災害・総合診療医学講座

³⁾ 青森県立中央病院

⁴⁾ 愛知医科大学災害医療研究センター

【目的】青森県の原子力発電所近隣地域を対象に、原子力災害を考慮したDHCoS事前リストを作成し医療ニーズ推計を行った。【方法】原子力発電所から半径30 km内に位置する医療機関などの情報を収集し、倒壊・停電・断水・浸水・放射線防護といった各施設のリスクを分析した。【結果】空間放射線量が基準値以上になると、放射線防護機能を有しない病院1件、社会福祉施設43件に段階的な避難が必要になることがわかった。地震に伴う複合災害の場合、倒壊リスクが高い病院1件と社会福祉施設3件、浸水リスクが高い社会福祉施設14件についても早期の支援が必要になることがわかった。【考察】作成した事前リストは、発災後早期に機能維持支援体制を確立させるべき施設や放射線防護機能の観点から避難の必要性がある施設の推計に役立つことが示唆された。【結語】各施設の放射線防護対策状況を含めた事前リストにより、原子力災害時の医療ニーズを推計することが可能となる。

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.29.3_222

● 調査報告

事業継続計画（BCP）改訂のためのA病院の職員の参集に関する定量調査—災害時の職員の参集人数の推定方法について—

早見 一輝¹⁾, 秋山 直美²⁾, 村上 栄司³⁾, 山田 誠⁴⁾

¹⁾ 岐阜市民病院看護部・災害医療部

²⁾ 名古屋市立大学大学院看護学研究科・看護学部

³⁾ 岐阜市民病院心臓血管外科・災害医療部

⁴⁾ 岐阜市民病院病院長

【目的】東海地方のA病院のBCP改訂に係る職員の参集可能性の調査について報告する。【方法】2023年12月に勤務する職員で、電子カルテを使用できる職員1,545名を対象とした。分析は対象者の特徴等を記述するとともに、有事の際の職員の参集

人数を推計した。【結果】本調査の回答率は905名（58.6%）で、職種によってばらつきがみられた。参集推計人数は全職員の48.3%に当たる746.2名が参集すると推計された。到着時間別にみると参集職員の95.0%に当たる708.9名が1時間以内に到着すると推計された。職種別で最も参集可能性が高いのは放射線技師（22.5/34名、66.2%）、次いで、医師（133.8/242名、55.3%）であった。【結語】平時の状況下の結果であるが、参集可能性の示唆を得たことは、被災直後の機能維持のための人的資源管理に活かせ、BCPの機能性を高める基となる。

https://doi.org/10.51028/jdisatmed.29.3_204

● 調査報告

災害救護薬剤師のための効率的な情報共有テンプレートの構築

谷 大輔, 安富 暉浩, 岡林 瑞希, 坂本 千明, 辻井 佳代, 小林 政彦

大阪赤十字病院薬剤部

【目的】救護活動時に薬剤に特化した情報の把握が難しい場合がある。本研究は、災害救護派遣薬剤師が後続の派遣薬剤師に対して効率的に情報共有するためのテンプレートを構築することを目的とした。【方法】能登半島地震におけるss薬剤師救護活動を対象に、派遣薬剤師と後方支援薬剤師が共有した情報を調査し、またアンケートを行い、災害時に必要な情報項目を特定した。【結果】派遣薬剤師が必要とした情報は「薬剤に関する運用」、「1日の流れ」、「派遣生活に関する情報」であった。情報報告に関して、多くの派遣薬剤師が負担を感じていた。【考察】テンプレートを使用することで、必要な情報を漏れなく提供でき報告負担の軽減が期待される。災害時に迅速に情報共有することが可能である。【結語】本研究で提案した情報共有テンプレートは、ニーズを反映していることから、実用的かつ効率化に繋がり、薬剤に特化した情報を円滑に共有するための手段となり得る。

https://doi.org/10.51028/jdisatmed.29.3_237

● 事例報告

兵庫県における災害医療ロジスティクス資源調整体制の構築と活動内容

中田 正明¹⁾, 中山 伸一¹⁾, 紅谷 昇平²⁾, 安藤 和佳子³⁾, 安部 史生³⁾, 宮安 孝行³⁾

¹⁾兵庫県災害医療センター

²⁾兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科

³⁾神戸赤十字病院

災害医療ロジスティクスは、ライフラインなどが制約される被災地で、災害医療チームが能力を発揮するために不可欠である。本稿では、医療資源の供給側である自治体と、受け手側である医療チームや医療機関との災害医療ロジスティクス資源調整体制についての検討組織の設置と対応項目の洗い出しについて、兵庫県の取り組み事例を報告する。兵庫県では、2004年に兵庫県災害救急医療システム運営協議会が設置され、2017年にその下部組織として兵庫県ロジスティクス作業部会が設置された。兵庫県ロジスティクス作業部会は、2018年に災害医療ロジスティクスで対応すべき項目について洗い出しを行った。さらに、その項目についての防災協定の締結状況を確認し、協定の見直しや新規締結の必要性について検討した。これら兵庫県の取り組み事例は、災害医療ロジスティクス従事者で構成する検討組織の重要性を示しており、ほかの都道府県の参考として有用である。

https://doi.org/10.51028/jdisatmed.29.3_230

● 体験レポート

歯学生への災害医学教育—岩手医科大学歯学部での取り組み—

熊谷 章子¹⁾, 眞瀬 智彦²⁾, 中久木 康一³⁾, 菊月 圭吾¹⁾, 岸 光男⁴⁾, 三浦 廣行¹⁾

¹⁾岩手医科大学法科学講座法歯学・災害口腔医学分野

²⁾岩手医科大学医学部救急・災害医学講座

³⁾東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科救急災害医学分野

⁴⁾岩手医科大学歯学部口腔医学講座予防歯科学分野

災害が発生するたび、歯科医師はその責務と認識を改めてきた。2011年の東日本大震災をきっかけに災害医学・法歯学への関心はさらに高まり、大規模災害発生時に他職種と連携して歯科医師が様々な活動に従事できるように、全国各地で研修や訓練が盛んに行われるようになった。歯学生たちにも早期から有事の際に歯科医師として活動する意識を持たせ、その立場と責務について適切に正しく教育する必要があるが、災害歯科医学は一般的な臨床歯科医学とは異なり、実際に経験させて学ばせることが困難な領域といえる。そこで本学では実動で得られる学びができるよう取り組んでいる。特に第4学年では3日間の集中コースが組まれており、座学のほかに被災地での歯科保健医療活動、犠牲者身元調査活動などの机上での訓練を盛り込んでいる。本稿では、本学で取り組んでいる歯学生への災害医学に関する教育について紹介する。

https://doi.org/10.51028/jdisatmed.29.3_199

● 研究速報

MedAnビデオ喉頭鏡を用いた狭隘な環境下での気管挿管の可能性

大谷 義孝, 小室 奈央, 加地 正人

埼玉医科大学国際医療センター救命救急科

https://doi.org/10.51028/jjdisatmed.29.3_220

【編集後記】

第29巻第3号を発刊いたしました。優れた研究結果をご投稿いただいた著者の皆さま、丹念に査読いただいた査読者の皆さまに感謝申し上げます。次第に投稿論文数も増加し、それに対応するため、以下の対応をおこなっております。

1. 査読責任者（編集委員査読担当）を増員します。一部の先生に査読が集中することを避け、多くの方々の目で査読をおこなっていただくことを目的としております。
2. 通常号を年間3号から4号へ増やし季刊とします。電子ジャーナル化いたしましたので実感は薄いですが、数、質ともに充実が図られている証と考えます。

本号への掲載をもって2024年分の掲載は終了となりますが、多くいただいた論文から編集委員および有識者によって、優秀論文賞を決定いたします。優秀論文賞を受賞された方は3月の総会にて表彰がございます。発表は1月中を目処におこないますのでお待ちください。

引き続き優れた研究結果のご投稿をお待ちしております。

編集委員長 七戸 康夫

投稿規定はこちら：https://jadm.or.jp/contents/journal/docs/journal_regulations.pdf?240410

投稿システムはこちら：<https://iap-jp.org/jadm/journal/login>

(学会雑誌に関するお問い合わせ先)

日本災害医学会誌 編集事務局

E-mail: jadm-edit@bunken.co.jp

〒162-0801 東京都新宿区山吹町332-6

パブリッシングセンター (株)国際文献社内

TEL: 03-6824-9363 / FAX: 03-5206-5332

関連学会便り

【日本災害看護学会】

一般社団法人 日本災害看護学会第27回年次大会

会 期 2025年9月6日(土)～7日(日)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター (渋谷区代々木)

会 長 長田 恵子 (東京医療保健大学副学長立川看護学部看護学科学部長)

事務局 東京医療保健大学 立川看護学部 看護学科

テ ー マ 災害における看護の汎用性

演題募集 2025年2月頃募集開始予定

学術集会HP <http://jsdn27.umin.ne.jp/index.html>

阪神・淡路大震災後30年の節目ともいえる今、本年次大会は「災害における看護の汎用性」をテーマとして開催いたします。災害時のあらゆる場や状況において看護の活動を役立てていくためには知の活用が重要であるという原点に立ち、これからの災害看護のあり方を皆様とともに考えていきたいと存じます。東京の地での日本災害看護学会年次大会開催は10年ぶりです。日本初のオリンピックに思いをはす本会場は、新宿や原宿、渋谷からもアクセス良好です。緑と光あふれる神宮の杜の傍らでお待ち申し上げます。

事務局からのお知らせ

● 日本災害医学会会員ページ「MyPage」ログインのお願い

日本災害医学会会員限定ページ「MyPage」のログインがまだの方におかれましては一度ログインをお試しいただき、情報の更新をお願いいたします。

日本災害医学会「MyPage」：<https://iap-jp.org/jadm/mypage/login/login>

○トップ画面イメージ



○メニュー画面イメージ



○主な機能

- ・会員登録情報（所属先・メールアドレスなど）の確認/変更
- ・年会費のクレジットカード決済/コンビニ決済
- ・年会費納入状況の確認、領収書の発行
- ・会員検索機能
- ・会員限定講習会
 - * 災害医学会会員限定の講習会について参加履歴の確認が可能となります。2024年10月現在、「コーディネーションサポートチーム研修」のみ対象となります。
- ・用語集の閲覧
- ・学会誌バックナンバー（メテオ）の会員限定ID/PWの確認
- ・会員限定動画配信

○会員の皆様へのお願い ※特に2024年5月以前にご入会された皆様

本学会では長らく、入会登録時に性別の項目を設けておりませんでした。学会内の会員状況調査や、他団体からのダイバーシティ調査へ対応するため、性別のデータを管理する運びとなりました。ログイン後、「登録情報の変更」より性別のご登録をお願いいたします。なお、多くの会員の方が性別未登録となっておりますので、皆様必ずログインしていただき、性別について確認・登録・変更をお願いいたします。

○初回ログイン方法

- ① 会員番号（5桁）をお手元にご用意ください。会員番号が4桁以下の場合は、冒頭に0を追加して5桁の数字にしてください。
例：会員番号101の場合⇒00101
- ② MyPageにアクセスしてください。
<https://iap-jp.org/jadm/mypage/login/login>
- ③ 初回はPWの取得が必要となります。MyPageトップ画面の「パスワード初期設定/再設定はこちら」よりPWの取得をお願いします。
※学会に登録されているメールアドレスが必要となります。学会に登録されているメールアドレスが不明となっている場合は、MyPage内にございますお問い合わせよりご照会ください。

・2025年度会費ご納入のお願い

本学会の会計年度は1月～12月となっております。2025年度会費の振込用紙を同封しておりますので、3月31日までにご納入くださいますようお願いいたします。納入状況がご不明な場合はMyPageよりご確認いただけます。※入金状況の確定および反映には最長10営業日かかります（年末年始、GW等はさらに時間を要する場合がございます）。

編集後記

日本災害医学会NEWS LETTERをお読みいただき、ありがとうございます。今回は開催が近づいてまいりました第30回総会・学術集会や第23回世界災害医学会の最新情報、アジア太平洋災害医学会の報告などを中心に構成しております。また、今回「会員通信」のご案内を掲載いたしました。皆様からの災害医学に関わるさまざまな投稿をお待ちしております。総会では、能登半島地震の振り返りやDMAT 20周年企画など多くのセッションが予定されており、素晴らしい情報共有の場となることを期待しています。皆様と名古屋でお会いできることを心待ちにしております。

【富永 綾】

2025年2月12日発行

発行所：一般社団法人 日本災害医学会

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5

TEL: 03-6824-9396 FAX: 03-5227-8631

E-mail: jadm-post@as.bunken.co.jpWEB: <https://jadm.or.jp>